

Rotary



宮崎南週報



感動と充実で豊かな夢と輝きを!

宮崎南ロータリークラブ
会長 日高 章智

第1831回例会

2015.5.18

会長／日高 章智 幹事／入佐 秀幸
副会長／川野 一義 会報／戸高 勝利
例会場／宮崎観光ホテル
ソング／奉仕の理想 おうま
ロータリーの目的



宮崎RC
渡邊道徳様

会長挨拶

日高章智会長

皆さん先週ご案内のとおり例会を30分早め、卓話の時間は1時間とし原田義之さん（国際ロータリー R I 1336地区チェンライ RC 直前会長）の卓話の時間と致しました。私共の創立40周年記念事業の蓮田ロータリークラブとの共同事業でありますタイ北部山間部の地域の子供達の識字率向上支援のための教育施設の改修、図書類の拡充のため現地のアドバイザーとして現在の状況など詳しくお話をいただきます。

原田さんは現地ではロータリアンとして、又、タイ北部のダムロン高校のボランティア教師として活躍され、又帰国された時は全国を講演活動により精力的に奉仕活動をつづけられています。昨日も札幌より講話を終えられ、宮崎に来ていただきました。全員の皆さんと共に充分現地の実状などお話をいただき記念事業の成功のため参考にしたいと思います。

出席委員会報告

分田正明委員長

●出席状況

本日状況	
会員数	(39) 40名
本日欠席者数	9名
本日出席者数	31名
出席率	79.49%

前々回状況	
会員数	(39) 40名
ホームクラブ出席者数	26名
メークアップ数	0名
修正出席者数	26名
修正出席率	66.67%

ニコニコ BOX 4件 5,000円
累計 231,000円

募金箱 5,720円
累計 159,947円

幹事報告

入佐秀幸幹事



・5月24日（日）地区研修協議会が行われますので、バス等の連絡はFAX致します。

・蓮田ロータリークラブよりグローバル補助金進捗状況報告が届いております。

ニコニコBOX

大隈栄子会員

5月誕生月です。ありがとうございました。

川村雅宣会員

昨日は2位でした。ありがとうございました。

山崎栄一郎会員

昨日のゴルフコンペで優勝させて頂きました。私にとって初めての経験です。参加されたみなさんありがとうございました。

入佐秀幸会員

昨日はご利用ありがとうございました。



ロータリー情報

ロータリーの使命の遂行(Carrying Out Rotary's Mission)

ロータリークラブと地区は、ロータリーの使命を遂行するべく、ロータリーの基本理念と価値観を認識すべきである。ロータリアンが奉仕プロジェクトを立案するにあたっては、これらの概念を心にとどめ、地域社会のニーズを見極めるべきである。

委員会報告

親睦委員会

川村雅宣委員長



- ・5月17日（日） 宮崎南RCゴルフコンペの参加ありがとうございました。

本日のプログラム

ゲスト卓話

タイ国・チェンライRC 原田義之直前会長



私は7年前の64歳に会社経営から一切身を引き「タイ北部の貧困な子供たち支援」のためミャンマー、ラオス、タイ国境近くのワーヴィー村に我が身を移し少数民族・アカ族子供寮「夢の家」の子供たちへの「就学支援」と「識字向上」から私財を投じて奉仕始めました。

その決断は兵庫県にあるクラブでロータリアンとして21年間学んだ「奉仕の心」を口で唱和することから「奉仕を行動する」に我が身を舵切ることでした。すなわち64歳までの「実業人生」と、それからの「奉仕人生」の二つの人生をたった一度の人生で生きると言う選択をしたのです。その結果今は北タイ貧困の現地に入り、チェンライにありますタイ国立ダムロン高校でボランティア日本語教師をする傍ら、71歳の我が身に鞭を打ち、体を張って「終着点のない国際奉仕ライフワークに挑戦」をしています。言うまでもなく、ボランティアですから、7年間において学校からは1銭の金銭も受け取っておりません。

日本でのロータリアン期間のうち15年間は、タイ北部の貧困な教育環境下の小学校に図書の配布を行

いました。その奉仕生活を通して、極貧なるが故に就学が出来ず、母国語であるタイ語を学ぶことの出来ないタイ北部・山岳部のアカ族の子供たちに出会いました。そしてその子供たちの瞳に、私は貧困とは無縁の輝きを見たのです。

私はその子供たちの瞳に魅せられ、この極貧地に身を移しこの子供たちへの「就学支援、識字向上奉仕」を始めました。この7年間私財を投じての奉仕活動には辛いものがありましたが、しかし貧困な中にも瞳を輝かせタイ語を一字一字学習するアカ族の子供たちとの絆は深まるばかりでした。

それには訳があります。この地は「ゴールデン・トライアングル」として昔からの麻薬取引、売春地帯なのです。この子供たちが就学することなく識字機会を得なければ、無知文盲なるが故に、やがてその「悪の道の予備軍」になるのです。今「私の前にいるこの子供たちを、その道に踏み込ませてはいけない」のです。私のその強い思いが、今日までの私の「アカ族子供たちへの就学支援、識字向上奉仕」に繋がっています。

少数民族と言う歴史的マイノリティー故に、貧困な生活を強いられながらも、識字向上に頑張るタイ北部・アカ族子供たちと私との22年間の絆を、著書「輝く瞳に会いに行こう」（出版社 幻冬舎ルネッサンス）に著わしました。そして今はその書籍の印税、売上げ代金を資金源として貧困と家庭環境に恵まれない北タイの子供達支援を展開しています。

そして帰国時には全国各地で講演をし、私が語らなければ知されることもない「アジアの片隅に住む少数民族子供たちの貧困と識字向上支援」の必要性を皆様に熱く語らせて頂いています。以上

